



# 三稜会会報

津島高校同窓会



平成28年8月1日 第65号

発行 三稜会  
(津島高校同窓会)  
事務局(津島高校内)  
〒496-0853  
津島市宮川町3-80  
電話 0567-28-4158  
発行人 横井 義一



昨年の「稲葉真弓さんの遺品展示コーナー」開設式には、稲葉さんのお母様・ご兄弟とパートナーの下川様をご臨席くださいました。

## 稲葉真弓賞を 西尾張地区高校の伝統に

三稜会会長

横井 義一



今年は母校の創立一六六周年に当たります。一一〇周年記念事業の柱は、学習室『興學館』の新設寄贈と、懸賞論文制度の設立です。前者は、日頃の学習に大変重宝されています。後者は、「母校の新しい伝統を目指して」を目標に掲げて、暗中模索の出発でした。しかし、生徒さんの素晴らしい反応が私たちの不安をかき消してくれました。

第一回の最優秀賞に輝いた佐屋高生の、レベルの高い作品に刺激されて、その後、津島・清林館・津島・清林館と両校生徒間での競い合いが続き、六回目の今年は、最優秀賞と優秀賞を津島東高生が獲得しました。同校は、二名の優秀賞誕生に輝いた昨年に続いての栄冠です。

この二年、参加校も応募数も増えました。学校単位での取り組みが強化されてきた感触も受けます。「考えて、書く力を養ってほしい」との設立趣旨が、広く理解され、認められてきた証であろうと思っています。

このように発展できた原動力は、素晴らしい作品の多さです。作品に反映されている生徒の姿から、逆に大人が、背筋を正さなければならぬ課題を突き付けられるような、それゆえ、多くの人にぜひ読んでいただきたい内容の作品がたくさん寄せられ

ました。そこで、入賞作品を『別冊』にして、多くの方に配布できるようにしました。役員・審査員一同も大きく鼓舞され、「稲葉真弓賞」への発展が許されたことは、大変喜ばしいことです。願わくば、地区全体の高校のご協力をいただいで、稲葉真弓賞を「西尾張地区高校の新しい伝統」として発展させられるよう、多くの高校、生徒さんからの応募をお待ちしています。創立一二〇周年記念事業の中で、「母校の新しい伝統」から「西尾張地区高校の新しい伝統」への発展をお祝い出来たら素晴らしいですね。稲葉さんもきっと喜んで、末永く応援してくださいることと思います。

昨年開設した稲葉さんの遺品展示コーナーの活用をお勧めいたします。

稲葉さんは、高校入学と同時に、大学ノートにピシリと短編や詩を書き始められました。遺品コーナーには約四十冊の大学ノートや、数々の表彰状などがあります。ご覧になれば、「稲葉真弓さん 文学の軌跡」の一端をご理解いただけ、きっと、力強いエネルギーを得ていただけることと思います。多くの皆様の参観をお勧めいたします。また、参加対象校への貸し出し等も考えたいと思います。今年春には、愛西市の新庁舎竣工を祝して、貸し出し展示会が行われました。この秋には、名古屋市内で大型展示会が実現します。

(別冊・三ページをご覧ください。)

この制度を支えていただいている協賛会社・後援会社のご厚意に厚く御礼申し上げます。さらに強固な支援体制づくりに向けて、幅広い同窓生の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

三稜会の皆様におかれましては、御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は、本校の教育活動に御支援、御協力を賜り、感謝申し上げます。昨年度は、体育館のステージ用スクリーンを設置いただき、また、「稲葉真弓さんコーナー」の開設にあたりましては、多くの皆様方から多大な御厚情を賜り、ありがとうございます。このコーナーにつきましては、今後も展示品の貸し出しなど、校内外問わず広く御活用いただけるよう、一層の充実を図ってまいります。

さて、本年四月、本県において、新しい教育委員会制度が発足しました。この他にも、現在我が国では、政府主導の教育改革が急速な勢いで進行しております。この改革の中心的な審議機関である教育再生実行会議は、今までに九つの提言をまとめました。その中の第六次提言で「地方創生を実現する教育の在り方」というものがあります。

その目標となる四つの指針を、次のように示しています。

- 一、地域を担う人材の育成
- 二、学生等の地方への定着等
- 三、教育機関を核とした地域活性化
- 四、地域、家庭の教育力や、スポーツ文化をいかした地域活性化



この提言では、人口減少と地域経済縮小の悪循環により、地方の弱体化が進めば、国全体が衰退しかねないとの警告をしています。そこで、国、地方公共団体、民間の総力を結集して、これらの課題を克服し、地方創生を成し遂げる必要があると説き、その成否は人材、つまりは教育にかかっていると結論づけています。

最近、「グローバル」という表現をよく耳にします。「ローカル」な問題を「グローバル」な視点で考える場合などに用いられますが、本校で学んだ生徒の中から、「グローバル」な立場で活躍する人が多く現れ、この地域の未来に輝きを与えてくれることを期待しております。

これまで本校は、大変多くの卒業生の皆様方の御活躍により、この地域の発展に大きく貢献してまいりました。今後、その役割は一層重要となり、津島高校は、その責任を果たしていかなければなりません。教職員一同、その実現のため、有為な人材育成に励んでいく所存です。三稜会の皆様には、今後も一層の御支援をお願い申し上げます。

### 三稜会幹事学年を終えて



卒業後三十年：平成二十七年年度の総会・懇親会は私たち三十八回生にとつて大きな節目の会となりました。会の運営に際し、諸先輩方には多大なご指導、ご厚情を賜り、感謝の気持ちでいっぱいです。また、同窓生の皆様方にも、多くのご参加をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

懇親会では、先輩方に楽しいひと時を過ごしていただこうと、私ども執行部を中心に百二十名でお迎えすることができました。

百十五年の歴史を刻む母校の伝統を支えに、幹事学年としての大役を終えたあと、「二十年後、また元気に再会しましょう」と全員で固く約束をしまし

た。こうして、同級生との絆を再確認し、より一層交流も盛んになりました。母校への感謝の気持ちを改めて強く感じ、私たちのささやかな気持ちを記念品に替えさせていただきます。三十八回生一同、後輩の皆様の教育活動にお役立ただければと、三稜館（体育館）舞台の「映写スクリーン」を寄贈させていただきます。

最後になりましたが、今後の三稜会の発展と、会員の皆様の益々のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

高校三十八回生代表 平野 誠二



# 平成28年度 総 会

「光陰矢のごとし」と申しますが、津島高校を卒業して、はや三十年という月日が流れました。この節目に、伝統ある三稜会の代表幹事という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでございます。目下、学年で力を合わせ、総会・懇親会に向けた準備を進めております。至らぬ点もあろうかと存じますが、会員の皆様方や先生方のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、幹事が近づいた昨年あたりから、母校に伺う機会が随分増えました。校内を見渡しますと、三十年前の雰囲気も十分に残っていて、訪問の都度、ひと時のタイムスリップを楽しんでいきます。変わらぬ光景を見ることで、当時の様々な思い出が蘇ってきます。

一方、あちこちに変化も見受けられます。やはり目を引くのは「興学館」。百十年の記念事業で新築された立派な学習室です。その他にも、国際的に活躍できる人材を育成する学校として指定を受けるなど、恵まれた教育環境に磨きがかか

## 総 会 に 向 け て

高校39回生代表幹事 服部 昭 弘

ついでに、何より嬉しいことが、在校生の方々から爽やかに挨拶いただけることです。素直で礼儀正しい後輩の姿を誇らしく、そして眩しく感じます。

このように、津島高校の今昔や将来の可能性を感じているには、母校に足を運んでいただくことが一番だと実感しています。本年度も、総会ならびにホームカミングデーは、津島高校三稜館(体育館)にて、懇親会は津島市文化会館にて開催させていただきます。皆様方にご不便をおかけすることになります。が、何とぞご理解の程お願い申し上げます。

また、十九回生の先輩方におかれましては、卒業五十周年という記念すべき年をお迎えになられ、心よりお祝いを申し上げます。当日は、幹事一同、おもてなしの気持ちで第一に、多くの会員の皆様方のご出席をお待ちしております。

最後になりましたが、母校の益々のご発展と、会員の皆様のご更なる活躍を祈念し、幹事学年代表の挨拶とさせていただきます。

【総会】 日時 平成二十八年九月二十五日(日)  
 受付 九時～ 総会 十時三十分  
 場所 津島高等学校三稜館

一 開会の言葉 幹事学年 佐藤 友彦 (敬称略)

表彰の部  
 二 第六回稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)各入賞者表彰式  
 審査委員長の挨拶・講評

総会の部  
 三 幹事学年代表挨拶 幹事学年代表 服部 昭弘  
 四 物故者への黙祷  
 五 会長挨拶 三稜会会長 横井 義一  
 六 校長挨拶 校長 服部 隆宏  
 七 津島高校勤続十年表彰 三稜会会長 横井 義一  
 八 黒澤教諭・神谷教諭・滝川教諭 議長(幹事学年)磯部 勝  
 九 議長選出・挨拶 議長(幹事学年)磯部 勝  
 十 平成28年度役員選出  
 平成27年度事業報告・平成28年度事業計画の報告  
 平成27年度決算報告・平成28年度予算の報告  
 閉会の言葉 幹事学年 後藤 尚代  
 〇記念演奏(二十分) 津島高校音楽部

## 平成28年度 三稜会総会次第

### 【総会】

日時 平成二十八年九月二十五日(日)  
 受付 九時～ 総会 十時三十分

場所 津島高等学校三稜館

### 一 開会の言葉

幹事学年 佐藤 友彦 (敬称略)

### 表彰の部

二 第六回稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)各入賞者表彰式  
 審査委員長の挨拶・講評

### 総会の部

三 幹事学年代表挨拶 幹事学年代表 服部 昭弘  
 四 物故者への黙祷

五 会長挨拶

三稜会会長 横井 義一

六 校長挨拶

校長 服部 隆宏

七 津島高校勤続十年表彰

三稜会会長 横井 義一

八 議長選出・挨拶

議長(幹事学年)磯部 勝

九 議長選出・挨拶

議長(幹事学年)磯部 勝

十 閉会の言葉

幹事学年 後藤 尚代

〇記念演奏(二十分)

津島高校音楽部

### 三稜会懇親会

日時 平成二十八年九月二十五日(日)十三時～

懇親会受付 十二時～ (於 津島市文化会館)

〇記念写真撮影

卒業後五十周年会員(高十九回生・定十六回生)  
 十二時四十五分より

〇合同懇親会

一 開会の言葉

二 会長挨拶

三 乾杯

四 卒業50周年会員表彰式

五 校歌斉唱

六 「三稜の鍵」継承式

七 次年度幹事学年

八 万歳三唱

九 閉会の言葉

当日は送迎バスがあります。

津島駅→津島高校	8:50発 9:10着
津島駅→津島市文化会館	9:32発 9:52着
津島高校→津島市文化会館	10:10発 10:30着
津島市文化会館→津島駅	11:50発 12:00着
津島市文化会館→津島駅	12:20発 12:30着
津島市文化会館→津島駅	15:15発 15:30着
津島市文化会館→津島駅	16:00発 16:15着

## 平成28年度 三稜会役員等(案)

相談役	津田はるみ	石川 鑛一
大橋 忠行	高 定 9	長谷川 実
後藤 秀彦	高 定 13	西原 正佳
田中 修一	高 高 14	水谷 靖
千賀 勝	高 高 14	理事
渡辺 五	高 高 14	神田 昭雄
横井 義一	高 高 17	伊藤 憲司
顧問	松岡 貞夫	尾崎 千尋
佐藤 忍	高 高 12	伊藤 紀彦
会長	横井 義一	馬場 孝道
副会長	横井 義一	市川 幸造
監事	横井 則夫	◎平野 誠二
水谷 正照	高 高 20	高 高 38
半田 正貢	高 高 20	高 高 37
東海 広光	高 高 21	高 高 36
鈴木 睦	高 高 23	高 高 36
北角 浩一	高 高 32	高 高 35
常任理事	岡田 貞雄	高 高 19
片岡 静子	高 高 6	高 高 28
大島 博	高 高 20	高 高 28
寺田 百合	高 高 23	高 高 28
青山 道男	高 高 24	高 高 27
諸戸 義巳	高 高 27	高 高 27
山田 潤	高 高 27	高 高 27
牛田 正之	高 高 28	高 高 27
平井 章博	高 高 29	高 高 27
石田 伸夫	高 高 33	高 高 27
黒澤 康敏	高 高 34	高 高 27
立松 秀樹	高 高 35	高 高 27
星野 孝之	高 高 36	高 高 27
平野 和枝	高 高 36	高 高 27
村松佳代子	高 高 36	高 高 27
村松佳代子	高 高 36	高 高 27
事務局長	諸戸 義巳	高 高 27
事務局	牛田 正之	高 高 28
事務局長	村松佳代子	高 高 28
事務局長	村松佳代子	高 高 28
事務局長	村松佳代子	高 高 28

◎は新役員 ○は役職変更

### 三稜会校内事務局

諸戸 義巳	高 高 27
山田 潤	高 高 27
牛田 正之	高 高 28
平井 章博	高 高 29
石田 伸夫	高 高 33
黒澤 康敏	高 高 34
立松 秀樹	高 高 35
星野 孝之	高 高 36
平野 和枝	高 高 36
村松佳代子	高 高 36
村松佳代子	高 高 36

■ 平成28年度 三稜会事業計画(案) ■

- 1 第1回三稜会理事会・幹事会 平成28年5月28日(土)
  - (1) 事業報告 (2) 事業計画
  - (3) 会計(三稜会・三稜育英会)報告 同監査報告
  - (4) 予算案 (5) 役員改選
  - (6) 総会に関する事(幹事学年39回生)
  - (7) その他
- 2 校内事務局打ち合わせ 平成28年4月
- 3 三稜会会報(第65号)の発刊 平成28年8月予定
- 4 平成27年度稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)審査  
平成28年5月21日(土)
- 5 平成28年度稲葉真弓賞(三稜会懸賞論文)募集  
10月要項配布予定(題は幹事学年が決定)
- 6 平成28年度総会・懇親会  
(幹事学年:高校全日制39回生・定時制36回生)
  - 総会・ホームカミングデー(会場:津島高校三稜館)  
平成28年9月25日(日)10時半より
    - 1) 役員改選
    - 2) 津島高等学校勤続十年表彰  
(黒澤・神谷・滝川教諭)3名
    - 3) 平成27年度稲葉真弓賞(第6回三稜会懸賞論文)表彰
    - 4) 平成27年度事業報告・平成28年度事業計画の報告
    - 5) 平成27年度決算報告・平成28年度予算の報告
  - 懇親会:総会当日午後 受付12:00 開始13:00  
(会場:津島市文化会館)
- 7 第2回三稜会理事会・幹事会 平成29年2月予定
- 8 三稜会入会式(全日制第69回生)平成29年2月28日(火)  
卒業式 3月1日(水)  
(全日制第69回生・定時制第66回生)

■ 平成27年度 三稜会事業報告 ■

- 1 第1回三稜会理事会・幹事会 平成27年5月30日(土)
  - (1) 事業報告 (2) 事業計画
  - (3) 会計(三稜会・三稜育英会)報告 同監査報告
  - (4) 予算案 (5) 役員改選
  - (6) 規約改正 (7) 稲葉真弓賞の選考結果
  - (8) 総会に関する事(幹事学年38回生)
  - (9) その他
- 2 校内事務局打ち合わせ 平成27年4月
- 3 三稜会会報(第64号)の発刊 平成27年8月1日発刊
- 4 平成26年第5回三稜会懸賞論文(稲葉真弓賞)  
最終審査 平成27年5月23日(土)
- 5 平成27年第6回三稜会懸賞論文(稲葉真弓賞)募集  
10月要項配布 題「言葉」
- 6 平成27年度総会・懇親会  
(幹事学年:高校全日制38回生・定時制35回生)
  - 稲葉真弓さん 文学の軌跡 除幕式(興学館)
  - 1) 平成26年度稲葉真弓賞(第5回三稜会懸賞論文)表彰
  - 総会・ホームカミングデー:平成27年9月27日(日)  
10時半より(会場:津島高校三稜館)
    - 1) 規約改正・役員改選・学年幹事への案内状
    - 2) 津島高等学校勤続十年表彰(水谷・柴山教諭)2名
    - 3) 平成26年第5回三稜会懸賞論文(稲葉真弓賞)表彰
    - 4) 平成26年度事業報告・平成27年度事業計画の報告
    - 5) 平成26年度決算報告・平成27年度予算の報告
  - 懇親会:総会当日午後 受付12:00 開始13:00  
(会場:津島市文化会館)
  - 1) 卒50年会員表彰(高18回・定15回)
- 7 第2回三稜会理事会・幹事会 平成28年2月6日(土)
- 8 三稜会入会式(全日制第68回生)平成28年2月29日(月)  
卒業式 3月1日(火)  
(全日制第68回生・定時制第65回生)

平成27年度 三稜会(一般会計)収支決算書

自平成27年4月1日  
至平成28年3月31日

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	28年度予算額
入 会 金 収 入	1,865,000	1,690,000	175,000	1,690,000
繰 越 金 よ り	0	0	0	0
そ の 他 の 収 入	400	713	- 313	100
収 入 計	1,865,400	1,690,713	174,687	1,690,100

支出の部

会 報 費	1,100,000	1,140,705	- 40,705	1,000,000
慶 弔 費	70,000	0	70,000	50,000
生 徒 記 念 品 費	100,000	73,440	26,560	100,000
会 議 費	60,000	40,377	19,623	60,000
事 務 費	400,000	130,863	269,137	400,000
そ の 他 の 支 出	135,400	74,670	60,730	80,100
支 出 計	1,865,400	1,460,055	405,345	1,690,100

当年度収支差額	0	230,658	- 230,658	0
前年度繰越収支差額	3,617,919	3,617,919	0	3,848,577
繰越金支出	0	0	0	0
次年度繰越収支差額	3,617,919	3,848,577	- 230,658	3,848,577

(円)

三稜会(一般会計)  
貸借対照表

平成28年3月31日現在

科 目	金 額
I. 資産の部	
普通預金	
普通預金 三菱東京UFJ銀行 津島支店	3,848,577

## お礼とお願い

稲葉真弓さんの遺品展示コーナー「文学の軌跡」設置にあたり、多くの皆様から心温まるご支援を賜り、寄せられた基金の総額は523万円余りに達しました。ここに、厚くお礼申し上げます。下記に詳細を記します。

今後も引き続き、維持費へのご支援をお願い申し上げます。総会参加費の送金時に、寄付額を加算して送金ください。

一口 3,000円 よろしく申し上げます。

記

稲葉真弓さんの相続人からの寄付 100万円  
(平成26年度：受領)  
寄付金額 役員関係 330万円  
同窓生・総会参加時の寄付金額 930,880円  
(H27収支計算書より)

## ※叙勲受章者の皆さん※

本校卒業生は各界でご活躍され、叙勲を受けられた方々も大勢いらっしゃいます。永年のご功績に敬意を表し、三稜会会報でご紹介させていただきます。(他にも叙勲を受けられた方がいらっしゃると思いますが、全部をお載せできずに申し訳ございません。ご本人やご家族、周囲の方々でぜひ三稜会事務局までお知らせください。)

28年春 瑞宝単光章 三輪田 信子 様  
(高校18回生) 児童福祉功労  
愛西市須依町砂山 元美和多保育園園長

## 平成27年度 一般財団法人三稜育英会 収支決算書

自平成27年4月1日  
至平成28年3月31日

### 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	28年度予算額
110 周年記念事業余剰金	0	0	0	0
三稜会祝賀会からの寄付金	700,000	822,637	- 122,637	700,000
三稜文庫募金の寄付金	100,000	89,232	10,768	100,000
松の木募金からの寄付金	100,000	96,173	3,827	100,000
周年記念事業積立金からの寄付金	0	0	0	0
三稜懸賞論文後援者からの寄付金	950,000	900,000	50,000	900,000
稲葉真弓さんの相続人からの寄付金	0	0	0	
稲葉真弓コーナー寄付金		4,230,880	- 4,230,880	
繰越金より	1,748,500	1,748,500	0	1,798,500
その他の収入	1,500	2,366	- 866	1,500
収入計	3,600,000	7,889,788	- 4,289,788	3,600,000

### 支出の部

三稜会総会準備金	0	786,060	- 786,060	0
三稜文庫	100,000	0	100,000	100,000
学校クラブ活動に対する補助	1,000,000	132,540	867,460	1,000,000
三稜懸賞論文	1,300,000	630,207	669,793	1,300,000
三稜賞	100,000	41,782	58,218	100,000
学校設備等の改善援助金	1,000,000	25,920	974,080	1,000,000
稲葉真弓コーナー		2,593,007	- 2,593,007	
その他の支出	100,000	76,614	23,386	100,000
支出計	3,600,000	4,286,130	- 686,130	3,600,000

当年度収支差額	0	3,603,658	- 3,603,658	0
前年度繰越収支差額	15,818,421	15,818,421	0	17,678,579
繰越金支出	0	0	0	1,798,500
次年度繰越収支差額	15,818,421	17,678,579	- 3,603,658	15,880,079

(円)

## 一般財団法人三稜育英会 貸借対照表

平成28年3月31日現在

科 目	金 額
I. 資産の部	
普通預金	
普通預金 三菱東京UFJ銀行 津島支店	17,678,579

## 津島高校の 思い出と今の私

一組担任

加賀 正憲 先生



早いもので、皆さんが高校を卒業されて、もう三十年の年月が経つので

皆さんが二年生の時、私は、転勤一年目で、理系クラスの副担任、三年生では、理系の男子クラスの担任でした。個性豊かな四十八名の男子がそろって、学業ばかりでなく、文化祭、体育祭など、いろいろな場面でやる気を見せてくれたクラスでした。とても充実した一年を過ごさせてもらいました。

十一年間の津島高校での教員生活でしたが、人間的に豊かで、寛容、そして応用力のある生徒が多かったということが印象に残っています。勉強、部活といった高校生活をバランスよくやりこなしていました。彼らなら卒業しても、幸せな、充実した人生を送っていくものと期待していました。その皆さんが、今や社会の中心となって頑張っていることに、嬉しさと心強さを覚えます。

さて、今の私は、今年の四月から「毎日」が「日曜日」です。前日の夜に明日は何をやるかと計画をたてるようにしています。そうではないと、次の日が全く無為な一日になってしまいますからね。おかげさまで、お天道様や、地域の皆さんが毎日何かしら仕事を与えてくれますので、日々、退屈せずに、それよりも思いもよらず忙しく過ごさせてもらっています。第二の

人生というほどではありませんが、今までとは違った生活も面白いなと感じる今日この頃です。

三十九回生の皆さんは、今後益々、社会的責任は重くなる一方、体に気を配らなければならぬ年齢に差し掛かっています。くれぐれも健康に留意し、ご活躍されることを心から祈っています。

## 時のながれの中で

二組担任

小川 廣彦 先生



今回三十年前の卒業生への原稿依頼を受けふいに望遠鏡を逆さに眺めて見たような感覚に襲われた。私にとっては初めての卒業生であり

印象深かったはずがいつのまにか遠い昔の事のように記憶の奥底に埋もれてしまっていたからだ。しかし、この依頼がきっかけでその頃のことが自然と甦ってきた。懐かしさに任せ当時の事に思いを馳せていると、今ある教師としての自分は多くの失敗によってこの時作られていたことを認識する。その後、他の学校を経験したが、教師としての基本的な考え方や姿勢はこの時期に作られたものであると気づかされた。

その一方で、この三十年に起こった自身の周りの変化と社会の変化のすさまじさに改めて驚く。人は慣れることのできる動物などと言われているが、知らず知らずの内にその流れに流され、今の自分に到っているといえるのだろうか。それはある意味では本当に幸運な事なのかもしれないが、不思議な感覚の中でまとまりの

ない感想を綴ってしまったが、これからも続く社会の変化、その中で生き抜くためには、津島高校のような包容力のある学校で高校生を送ったということが大きな意味を持つのだと私は確信している。高校時代に育んだ元となる自分を大切にしながら、大きく変わっていく時代を楽しんでいただきたい。過去は変わらないが、そこから学ぶことはできる。経験したことが大きな力となる。これからも大いに学び挑戦していただきたいと思います。

## つれづれ／近きに ありて遠きもの

三組担任

伊藤 正隆 先生



手元に在る一枚の写真のテレホンカード。卒業記念にと真新しい武道場をバックに、47+2 勢揃い。公衆電話のカード口(ぐち)は

徐々にうすく、我々の記念にという思いはますますあつく、結果なかなか使い切らず、それが却って三十年間手元にとどまるゆえん。六十三年間分の約三十年間姿を見てきた校舎、うち十五年間は喜怒哀楽を共にしてきた。

一番は「あかるく」だっけ  
「たのしく」だっけ 三番は何だっ  
たっけ  
「へ」が「辺り」だということ  
「む」は意志の助動詞で「しよ  
う」という

意味であること「ものを」が「...」  
「...だから」という意味であること  
を知ったのは、あなたたちと出会った  
教員になってから  
♪をくかのへのく  
何十回何百回歌っただろう  
何と単調な歌だ、と思った  
でも忘れない 口ずさむ  
♪若き日は かへらぬものを♪  
：実感

## 二度目の定年

五組担任

串田三九二 先生



津島東高校を定年退職してから早や五年目に突入、迷わず選んだ再任用教諭も最終年となりました。今年是一年生の副担任、今までの三年の学年付だったことと比較すると、なんとも新鮮なことか。入学式、オリエンテーションと、とりわけ若い高校生と共に奮闘しております。

三十九回生の皆さん、ご苦労様です。卒業三十年、社会の各ポジションで無二の存在として活躍されていることと確信しています。どうぞ様々な場で目標に向かって精一杯突き進んでください。

津島高校時代の生活は今の人生の基盤になっています。今、当時、学校祭で更衣室の建物の屋上に絵を描きました。素晴らしい作品でしたが、制作の過程や完成後の処理の拙さで不愉快な思いをさせてしまったのが残念でした。また、ある先生に「個より集団を育てるのが今一歩だ」と課題をいただいた

たのもこの頃だったと思いが残ります。そういったことはその後の私の教員生活の基盤になりました。現在は朝日連区地域協づくり協議会のボランティア活動や津島ホテルの会、各種スポーツと自分の時間を作りながら、成り行き任せに近いシニア生活を楽しんでいきます。

## 退職後の生活

六組担任

山本 則子 先生

教職を定年退職して、はや十年になります。三十九回生は一年から担任をし、苦楽を共にした忘れられない学年です。この経験が、その後の教員生活を続けるうえで自信になりました。皆様と過ごした三年間は、かけがえのない貴重な日々でした。

さて、今はすっかり「化学」とは離れた生活していますが、先日、日本で発見され、命名権を得た百十三番元素「ニホニウム」のニュースが流れました。理科が苦手な生徒にも、分かりやすく解説し、興味を持ってほしいと、悪戦苦闘していた当時は懐かしく思い出しました。

私は、古希を過ぎましたが、健康な日々を送っています。早朝散歩や水泳、さらにヨガと太極拳を続けています。また、退職後絵画教室に通い、一年一回の作品展や津島の文化祭に出展しています。昨年度は、団地自治会長の



夫と二人三脚で、地区の行事に取り組みました。自主防災活動にも積極的に参加し、地域住民との絆が深まりました。

昨年一月にネパールを訪れ、ヒマラヤ山脈のふもとをハイキングしました。山の斜面に点在する家々から子供たちが集まってきました。お菓子をあげると、満面に笑みを浮かべ、片言の日本語で「アリガトウ」とお礼を言う純朴な子供たち、その二か月後に大地震があり、あの幼子達の安否に心を痛めました。世界各地では、テロにより多くの命が失われています。いま、こうして平穏な生活ができる幸せに感謝し、一日一日を大切に生きていこうと思っております。

## 存在の見える人間に

七組担任

横山 了祥 先生



卒業三十年に当たる三十九回生の皆さん、三稜会の幹事学年として母校のために立ち上がっていただき大変ご苦勞様です。三十年も経つと自分も日に日に「歳」を感じるようになり、つくづく人生は短いものだと思います。定年までは、十代という高校生の若者と過ごし自然と活力が湧いてきました。退職した途端、お年寄りの方々と膝を交え、今は悟りを追求する毎日です。

津島高校は、教員生活三十八年間のうち、三分の一にあたる十三年間もお世話になりました。ありがたいことです。共通一次試験対策でオリベッティの計算機を駆使したこと、文理系の進学で受験科

目の選択に悩まされたこと、柔道部顧問で改めて校訓「三稜（知・仁・勇）」に感動したこと、バトン部同好会を立ち上げて野球部を応援したこと、懐かしい思い出です。特に校風が自由でありながら、業後の自学自習という精神はすばらしいものがありました。デジタル社会にどっぷり漬かっている現代、アナログ的で泥臭い津島高校がいい。短い人生に自分が今残すべきものは何か。やがて天命を迎える三十九回生に送りたい言葉であります。

## 近況

八組担任

伊藤 茂文 先生

卒業三十年、三十九回生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。前年の同窓会でお会いした際には、それぞれの分野でご活躍の様子を見聞きして、大きな感慨を覚えました。津島高校の持つ素晴らしい力を改めて感じました。

さて、私ごとですが、平成二十五年三月に、二度目勤務となる津島高校で定年を迎えました。その後再任用教諭として、週に二日半、尾張地区の県立高校で勤務しながら四年目を迎えています。常勤の時より自由裁量時間がいくらか増えました。家の周りの草取りや手入れ、老親の世話、地域の自治活動カメラを持っての旅行などしています。写真は昨年、バ



リ島を旅した時のものです。のどかな棚田の風景に心が癒されました。

また、津島高校ソフトテニス部顧問の先生から声をかけていただき、週末を中心に、外部コーチとして、主に女子の練習に顔を出させていただいています。体力的に厳しさをを感じるようになってきましたが、テニスコートに響く打球音は、気持ちの淀みを取り去って爽やかにしてくれます。卒業生のお子さんが入部するなど予期せぬ喜びもあります。

この年齢になって改めて感じることで、何をすることも健康第一。健康には十分留意され、卒業生の皆さんがその可能性をさらに伸ばしていけることを願っています。

## 三十九回生の思い出

九組担任

平野 直子 先生



早いもので、あなたたちが卒業してからもう三十年になるのですね。

私が初めて三年生を担任した学年でしたが、本当にいい生徒たちばかりで、三年生の担任って、こんなに楽しくていいのだろうかと思っていました（後年、その神話はくずれましたが）。毎日やらなければならぬことがたくさんあって、就寝も真夜中過ぎが当たり前前の生活でした。何がわからなくて、何をわかっているのかを知るために日々添削をしていました。でも、どんなミスもスカーレットしていく私の要求に、あなたたちは応えてくれたので、そんな生活

も苦にはなりません。そして、そんな指導法が私の定番のスタイルになっていきました。何度かあった学年同窓会の折に元氣な姿を拝見し、見た目の年の差が目立たなくなったことを密かに喜んでいました。いつまでこの仕事ができるかわかりません（早くやめるといふ声も聞こえてきます。が、最後まで精一杯努めたい）と思っています。今はただ感謝の毎日です。

## 三十年前の津島高校

十組担任

原田 邦彦 先生

三十九回生は学年同窓会を数年前に開催してくれたおかげで、卒業後のつながりが深いと思います。幹事の面々に感謝しております。

新任として赴任した津島高校では、青年教師時代の楽しい思い出と若気の至りといえる若々しく恥ずかしい思い出がいっぱい詰まっています。学校で火が使えなくなると今からすると、学校祭のファイアーやHRレクでも懐かしいです。どの広い校庭がとも懐かしいです。三年十組は唯一の地理単独クラスで、Tシャツに「僕たちかいじゅう3の10」とワンポイントを印刷して物議を醸しました。現任校では派手な染物・織物のオリジナルTシャツが盛んですが、当時はシンプルでした。

山岳部では一緒に木曾川の堤防まで走って川遊びに興じたこと、剣岳山頂付近で雷雨に遭遇して命拾ったこと、残雪多く山小屋までたどり着いた時には夜中だった

高校三十九回生担任
一組 加賀正憲
二組 小川廣彦
三組 伊藤正隆
四組 内田俊弘(逝去)
五組 串田三九二
六組 山本則子
七組 横山了祥
八組 伊藤茂文
九組 平野直子
十組 原田邦彦

ことなど忘れられません。今やプレゼンテーション、アクティブ・ラーニングと呼ばれ、総合学習としても定着しましたが、当時、発表授業を多く取り入れていました。紙芝居や資料集めに奮闘してくれた二年時の地理の授業が教員生活のとてもいい経験でした。長期休業中にアフリカやアジアへの「研修旅行」に出かけたのもこの頃でした。危なっかしい青年教師の取り組みを先輩諸氏が支えてくださったのだと、今更ながらに感謝しています。また、のびのびした校風の中、生徒諸君が私を育ててくれたのだと感じます。現在ではあと一年半となった現役生活、相変わらず、山と温泉、海外研修へとは出かけながら、昭和高校の三年担任として楽しませてもらっております。



